

講師プロフィール

木村 拓郎 一般社団法人 減災・復興支援機構 理事長 博士（工学）

1971年から減災対策の仕事に従事。これまで雲仙・普賢岳噴火災害、阪神・淡路大震災、新潟県中越地震、東日本大震災などの復興計画策定に参画。東日本大震災では宮城県石巻市の実家が津波で被災。現在は「避難所生活」対策「災害関連死」対策などに力を入れている。

【専門分野】 災害社会学 災害復興学

●略歴など

- 1971 東北工業大学建築学科卒業
- 1992 東京大学大学院社会学研究科 修士課程修了
- 1997 (株) 社会安全研究所を設立 所長に就任(09 年 11 月より特別顧問)
- 2005 日本自然災害学会学術賞受賞
- 2006 長崎大学大学院生産科学研究科 博士後期課程修了
- 2010 (一社)減災・復興支援機構を設立 理事長に就任
- 2012 河北新報社「巡回ワークショップ むすび塾」企画・進行
(2016 河北新報社より感謝状を授与される)

●役職・委員

- 日本災害情報学会 名誉会員・事務局長
- 日本災害復興学会 名誉会員
- 静岡県 防災対策推進専門家
- NPO 法人 災害看護支援機構 理事
- NPO 法人 洞爺にぎわいネットワーク 顧問
- ネットワーク三宅島 顧問
- 東京都北区防災会議 国民保護協議会 委員
- 雲仙岳火山防災協議会 委員

●著書（含む共著）

「自然災害科学・防災の百科事典」丸善出版「災害情報学事典」朝倉書店「災害対策全書」ぎょうせい「災害対応ハンドブック」法律文化社「災害危機管理論入門」弘文堂「火山災害復興と社会」古今書院「災害復興ガイド」クリエイツかもがね「災害時のヘルスプロモーション」荘道社「災害看護」メディカ出版「災害復興学事典」朝倉書店など

宮下 加奈 一般社団法人 減災・復興支援機構 専務理事

東京都三宅島に生まれ、噴火災害で 2 度被災する。1983 年の噴火では溶岩流で自宅が埋没し、避難所、仮設住宅の暮らしを経験する。2000 年の噴火では 4 年 5 ヶ月もの長期避難生活を体験した。この災害の避難中から住民組織での活動を開始、一被災者として長期避難中のコミュニティー維持を支える活動を行う。2005 年の全島避難解除をきっかけに「ネットワーク三宅島」を創設。2010 年(一社)減災・復興支援機構を設立して活動中。

【専門分野】 市民減災学 災害ボランティア

●役職・委員

- 火山地域の市民活動相互支援ネットワーク事務局長
- 日本災害復興学会復興支援委員会 副委員長
- 日本災害情報学会事務局
- 株式会社スタートライン 研究倫理委員会 委員
- 栃木県「避難のあり方」検討委員会委員

●書籍、寄稿など

「シリーズ災害と社会8 社会調査でみる災害復興- 帰島後4 年間の調査が語る三宅島民の現実」弘文堂「災害情報 No. 13」日本災害情報学会学会誌、「消防科学と情報」(財)消防科学総合センター、「月刊自治研」(株)自治労システムズ「Consultant」(社) 建設コンサルタンツ協会「災害復興学事典」朝倉書店など

・ 2012 河北新報社「巡回ワークショップ むすび塾」企画・進行(2016 河北新報社より感謝状を授与される)